

## 志位共産党書記長の発言を評価したい

高井 晋

これまで共産党の大多数の主張は、もっともらしく聞こえるがその実は党利党略に基づいていると考えていた。しかし、11月26日付オンライン産経新聞の記事によると、中国の王毅外相の発言と茂木外務大臣の態度に対する志位書記長の批判は、党利党略を超えた、日本の将来を見据えたまっとうな見解であると思う。

王氏は、11月24日の日中外相会談後の共同記者会見の場で、「ここで一つの事実を紹介したいと思います。この間、一部の真相をよく知らない日本の漁船が絶え間なく、釣魚島の周辺の敏感な水域に入っています。これに対して中国側としてはやむを得ず必要な反応をしなければなりません。これが一つの基本的な状況です。」と発言した。

これに対し志位氏は、「これは非常に重大な発言だと、許しがたい発言だと、暴言だと思う。結局、日本側の責任にしているわけだ。しかし、尖閣諸島周辺の緊張と事態の複雑化の最大の原因がどこにあるかといえば、日本が実効支配している領土、領域に対して力づくで現状変更しようとしている中国側にある。中国側の覇権主義的な行動が、一番の問題だ」とクレームをつけた。そして、「にもかかわらず、王毅外相のこの発言は日本側に問題があった。だからやむを得ず中国としてはこういう対応をしているんだと日本側に責任を転嫁する、驚くべき傲慢不遜な暴言だ。絶対許してはならない暴言だ」と言い切った。

さらに、志位氏は「そしてここで重大なのは、茂木氏が共同記者発表の場にいたわけでしょう？ それを聞いていながら、王氏のこうした発言に何らの反論もしなければ、批判もしない、そういう対応をした。そうすると、中国側の不当で一方的な主張だけが残る事態になる。これはだらしがない態度だ。極めてだらしがない」と述べている。

尖閣諸島を巡る東シナ海の安全保障環境は、中国のこれ見よがしの海洋侵出のため、益々緊迫の度を高めている。日本の尖閣諸島に対する統治権の行使は極めて消極的であり、このことが中国をして傲慢な態度をとらせる原因となっていることは、周知の事実であろう。

新聞報道が正しければ、王氏の発言は、志位氏の主張通り極めて剣呑で、友好関係を深めるための日本訪問中の共同記者会見で披歴する内容ではない。また王氏の発言は、中国共産党を意識したものと思われるが、日本を見くびっている中国の大国意識が見え見えの発言でもあった。

また、共同記者会見の場に茂木外務大臣が同席していたのであれば、そして中国の記者がいるのであるから、茂木氏は、即座に王氏の発言に反駁するか、少なくとも遺憾の意を表明すべきであった。志位氏の発言は当を得たものと言えよう。(2020年11月26日)